

FOR IMMEDIATE RELEASE**エクイスエナジー、青森県にて新たに 47.5 MW 太陽光発電所の商業運転開始**

(2017年11月20日)

アジア太平洋地域最大の独立発電事業者（IPP）であるエクイスエナジーは、青森県上北郡七戸町に位置する3カ所の太陽光発電施設において、新たに計47.5MWの商業運転を開始しました。

エクイスエナジーは、青森県内に170MWの発電容量を超える案件を保持しており、既に10カ所の太陽光発電所にて商業運転を開始しております。また、更に1カ所の発電所が建設中であり、2017年12月には36MWの新規の風力発電所を着工する予定です。

青森県内の発電施設を管理するにあたり、エクイスエナジーは県内にO&Mセンター（運営・維持管理業務を行う施設）を設けており、現地で密に管理業務を行うことによって、ダウンタイムやリスクを軽減させながら、最大限の稼働率で発電所を運営しております。今回、商業運転を開始した「七戸7」案件は、エクイスエナジーが誇るエンジニアリング力、購買力、建設管理能力をもって全て自社で開発しており、自社開発を行うことによって、工事の質を上げるのみならず、大幅な開発コストおよび工期の削減をすることに成功しました。

エクイスエナジーは、日本国内に総計0.9GWにのぼる37件の案件を保有しており、この他にも総容量1.3GWにのぼり案件を現在開発中です。東京本社をはじめとし、青森県七戸町、福島県福島市、茨城県笠間市に事業所を構え、開発、設計、プロジェクト管理を行う経験豊かなエンジニア陣や投資のプロフェッショナルによるスタッフを60名以上雇用しております。

エクイスエナジーの日本代表であるアダム・バリーンは、次のように述べています。

「今回新たな発電所を稼働することができ、青森の皆様とより深くお付き合いできることを大変嬉しく思います。とりわけ七戸町では7カ所の太陽光発電施設を運営させていただいており、安価でクリーンな電力を現地の皆様にお届けするのみならず、弊社事業を通して地域雇用を創出し、またCSR活動を通して地域発展に貢献できることを大変嬉しく感じております。」

今回商業運転を開始した3つの七戸案件では、年間計104,025MWhを発電します。これは、年間14,950世帯に供給可能な発電量に相当し、67,616トンのCO2削減、9,810万リットルの節水効果をもたらします。

エクイスエナジーについて

シンガポールに本社を置くエクイスエナジーは、アジア太平洋地域に15のオフィスを展開し、100名の専門技術者および38名の現地開発に精通した開発要員を含む、300名以上のスタッフを雇用しています。エクイスエナジーは、発電容量ベースでアジア太平洋地域最大の再生可能エネルギー独立系発電事業者(IPP)であり、インド、インドネシア、オーストラリア、タイ、フィリピン、台湾および日本に跨って、合計11,135MWにのぼる180カ所の再生可能エネルギー発電事業を保有しています。

本プレスリリースに関するお問い合わせはこちらまで：

畦地 麻子（あぜち あさこ）

jp-enquiries@equisenergy.com